

# 課外活動共用施設が完成

## —文化、芸術系サークル用—

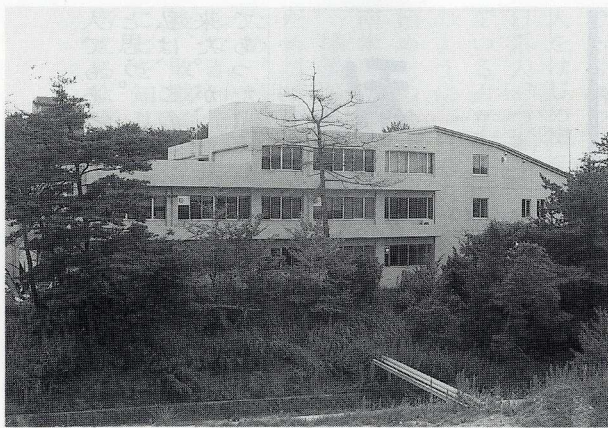
### 学生部学生課

課外活動共用施設（文化系・芸術系）が、八月下旬、西条キャンパスにおいて新たな装いで竣工した。昭和五十七年三月広島大学統合移転における最初の移転学部である工学部の移転に伴って、第一期の一〇六三平方メートルは竣工し、西条キャンパスにおける課外活動施設として、すでに使用していたが、この度第二期の一〇七四平方メートルが増設されて、念願の課

外活動共用施設（文化系・芸術系）二一三八平方メートルが一つの建物として完成したわけである。

既設の団体連絡室一室、会議室五室、音楽練習室一室、ラウンジ（談話室）一室、無線練習室一室、倉庫一室であったところに音楽練習室二室、多目的練習室二室、暗室、録音室、創作室、団体連絡室、楽器庫、作業室が各一室及び和室一室二間が加えられ文化系・芸術系サークルの課外活動共用施設としての機能と体裁を整えたわけである。

完成したサークル棟（右半分が増築部分）



特に、音楽練習室一〇六平方メートルの一室は二階から三階への吹き抜きの練習室で、各音楽サークルがオーケストラ形式で使用できるように建築しており、これまで合奏練習をする場合に、その場所探しに苦労をしていた音楽系サークルの悩みが一気に解決された。また、茶道、邦楽、落語、将棋等のサークルが使用する和室もモスグリーン色の壁に、床の間もゆったりとつてあり落ち着いた雰囲気の中で活動できるように配慮されている。

今後は、これらの施設を有効に使用して、広島大学の課外活動サークルが、一層の飛躍することを期待したい。

## 外国人留学生などの調査を実施、留学生、教官、学生チューターを対象に

学生部では文部省の経費支援を受けて、本年六月八日に「広島大学留学生教育調査研究会」を発足させ、増加する一方の外国人留学生に対する教育・指導推進の基礎資料にするため、実態調査を行うことになった。

留学生、教官、学生チューターに対して三種の調査用紙を配布し、アンケート形式で答えてもらう。八月二十五日付けの文書で各部署に調査依頼が行われており、関係者の協力を要請している。

## 学生宿舎の整備計画再検討へ、希望者多く、増設を要望

西条地区の学生宿舎の整備計画は六二〇室（日本人男性 四七〇室、女性 一五〇室、外国人男性 五〇室、女性 五〇室）で、本年度一〇〇室（日本人 七五室、外国人 二五室）を整備し、六年度一〇〇室（リ）

を整備すると計画は達成される。しかし増え続ける外国人留学生や混住を希望する日本人学生の競争率も高く、東広島市の学生下宿整備状況も考慮しつつ、整備計画を再検討する方向となる模様である。

## 広大跡地問題の研究会、中国財務局長への答申の要旨

六月十五日に中国財務局長の諮問機関「広島大学跡地有効活用研究会」（昨年三月設置）が行った答申の要旨は、大蔵省中国財務局広報紙「大蔵ちゅうごく」(No.8)によると以下のとおり。

際交流拠点機能などが挙げられている。千田町寄宿舎等跡地（一万㎡）は高齢化社会での医療・福祉体制を強化する人材の育成機能、高度医療機能を開発理念とし、看護婦養成の大学や高度医療施設などを検討する。

本部跡地（十一万五千㎡）は都市構造上の立地特性や都心部、広域拠点の開発の動向を考慮すると、都市周辺機能をもつ立地が適当である。他方都市デザイン上の立地特性として、都心部を囲む緑の環状帯が形成される位置にある。そこで一枚の土地として一体として整備する方向。緑の機能と高次の都市機能などを複合的に取り入れた潤いのある街づくりをめざす。

学校教育学部跡地（一万八千㎡）は多心型都市構造を実現するための環状交通機能と公共事業移転代替地にあててことを開発理念とし、府中仁保道路（仮称）のインターチェンジの建設とこの道路事業のための移転代替地などとして利用する。

緑の機能とともに学術研究教育機能、芸術文化の創造機能、「にぎわい」機能、国

この答申は第一段階の素案で、今後は事業主体になる団体が答申を尊重し、速やかに具体的利用計画を作成することを要望している。